



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴史家 白駒妃登美

今回ご紹介するのは、ここ二十年ほどのNHK大河ドラマで最も視聴率が高かった『篤姫』の主人公です。宮崎あおいさん演じる篤姫が、十三代将軍・家定の正室と決まった時、養育係の老女が命を賭して、こんな名言を残しています。

「女の道は一本道にございます。定めに背き、引き返すは恥にございます——」

実はこのセリフの真偽も、こんな老女がいたかどうかとも史実としては定かではないのですが、私はこの言葉こそ、彼女の人生を象徴していると思えてなりません。

というのも、彼女はもともと薩摩藩主の分家の娘でした。三代将軍・家光以降、徳川将軍家は公家出身の女性を正室に迎えてきましたが、彼女たちはあまり体が丈夫で

### 徳川の人間として

## 徳川十三代将軍の妻・篤姫

# 女の道は一本道



篤姫 薩摩藩主の分家に生まれ、21歳で徳川13代将軍・家定の正室に。2年後に家定と死別し、それ以後は天璋院と称す。新政府軍に破れたあとは大奥の解体に尽力。

【イメージイラスト】  
アオジマイコ

### 失業者のケア

近現代の日本にとって、明治維新は大き

はないのか、正室が跡継ぎをもうけたのは二代将軍の妻・江以外ありませんでした。家定自身も病弱だったこともあり、徳川家は武家の娘・篤姫を迎え入れたのです。

その後、時代は激しく移り変わり、薩摩藩や長州藩などの雄藩が連携して「倒幕」をめざすようになります。篤姫からすれば、自分が嫁いだ家に実家が攻め込んでくるわけです。実は、明治維新の時には篤姫の夫・家定はすでに亡くなっており、彼女は故郷に戻るといふ選択肢もありました。それでも篤姫は徳川の間人という立場を貫きます。その意志の強さは、まさに「女の道は一本道」に集約されると思うのです。